

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式		
E140P003		教育支援実践研究 (Practical study of learning support)								対面		
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態			
選択必修		2	3・4	教育学部		他	日本語		複数(共同)			
担当教員	氏名 前田 菜摘, 森下 覚, 麻生 良太											
	E-mail managing-sp@oita-u.ac.jp 内線											
授業の概要	学校現場を継続的に訪問し、校外学習なども含む教育現場のさまざまな教育活動を観察したり、教科指導の補助などを体験したりすることによって児童・生徒とコミュニケーションを通じてふれあい、教育の厳しさや喜びを体験することを通して、教職を目指す者としての自覚を高める。											
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) 1 2 3 4 5 6 7												
目標1 児童・生徒とコミュニケーションを通じてふれあうことができる。 1 2 3 4 5 6 7												
目標2 体験から学ぶということについて自覚することができる。 1 2 3 4 5 6 7												
目標3 教職の実際について自分の考えを深めることができる。 1 2 3 4 5 6 7												
目標4 1 2 3 4 5 6 7												
目標5 1 2 3 4 5 6 7												
目標6 1 2 3 4 5 6 7												
目標7 1 2 3 4 5 6 7												
目標8 1 2 3 4 5 6 7												
目標9 1 2 3 4 5 6 7												
目標10 1 2 3 4 5 6 7												
各DPへの関連度(計10) 3 4 3												
授業の内容												
1 サポート活動(1)												
2 サポート活動(2)												
3 サポート活動(3)												
4 サポート活動(4)												
5 サポート活動(5)												
6 サポート活動(6)												
7 サポート活動(7)												
8 サポート活動(8)												
9 サポート活動(9)												
10 サポート活動(10)												
11 サポート活動(11)												
12 サポート活動(12)												
13 サポート活動(13)												
14 サポート活動(14)												
15 サポート活動(15)												
ラ ア イ ニ ン グ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	大学における学修・教育実習等で学んだ知識をもとに、学校現場における活動・問題解決を体験する。活動の振り返りや大学担当教員・活動校教員とのコミュニケーションをもとに省察的に教師としての力量を高める。	工そ 夫の 他 の 活動。 2 ポイント 校園の授業開始～授業終了時限までの1日の活動(6時間程度)。3 ポイント 宿泊を伴う活動									
授業時間外 学修の内容 と想定時間		準備学修	・活動参加にあたり、大学において実施する説明会、面談、事前指導を受けること(3h)。 ・活動前に活動校との打ち合わせを行い、学習支援を円滑に進めることができるように、準備や予習を行うこと(20h)。									
		事後学修	・毎回の活動後に自身の活動を振り返り、報告を提出すること(20h)。 ・大学において実施する中間事後指導を受けること(2h)。									
		想定時間合計	45									
教科書		特に指定しない										
参考書		田島充士・中村直人・溝上慎一・森下覚(編)(2016)「学校インターンシップの科学 - 大学の学びと現場の実践をつなぐ教育 -」ナカニシヤ出版 ISBN978-4-7795-1048-9 価格4,000円+税										

